

セミナー参加報告書

草津市議会議長
西村 隆行 様

令和7年2月18日
草津市議会 草津維新の会
報告者：田中 詩織

I 講演会の概要

1. 日 時 令和7年2月12日（水） 11時～12時
2. 研修場所 東京都 大田区産業プラザ PiO
東京都大田区南蒲田1-20-20
3. 講 師 プロダクトデザイナー 深澤直人氏
4. 講演内容 「ついあそんじゃうデザイン」
5. 参加者 草津市議会会派 草津維新の会
田中詩織
6. 参加費 3,300円

II 講演の内容

前半は、マット・マクレアリー (Matt McCleary) の話を交えてデザインの重要性や行動への関与について講演。マットマクレアリーは、子どもの遊びと環境デザインの専門家で、自然な身体活動と心の発達を促す遊具デザインを提唱している。子どもが環境と自然に関わり合える遊び場づくりを重視し、体が自然に反応する遊具の設計に取り組んでいる。

後半は深澤氏がデザインした遊具をみながら、体が自然に反応する遊具について、遊具におけるデザインの重要性などの講演。

III 受講して

今回の講演はデザインからみた遊具やあそびについての話だったが、大切なキーワードが多くあり、共感できる内容であった。例えば「自然に体と心を鍛える」「こどもはいつも体で環境と戯れている」「遊具も環境の一部である」「こどもの数だけ色々な遊び方がある」などがそうで、私が考えるこれからの遊具に必要なこと、求めることと一致しており、加えて沢山のヒントを得た。デザインの道で活躍されている講師の方で、表現や考え方が卓越されているところがあり理解が難しい部分もあったが、デザインのカや意味を考えることも必要なことであると感じた。また、デザインによる行動の誘導も可能であり、子どもたちが遊びたくなるデザインというものは存在するが、遊び方は自由で、子どもたちの感覚を大切にする。そういった考え方がこれからは大切になると改めて感じることのできる講演であった。

IV 研修の資料等

別添のとおり

セミナー参加報告書

草津市議会議員
西村 隆行 様

令和7年2月18日

草津市議会 草津維新の会

報告者：田中 詩織

I 講演会の概要

1. 日 時 令和7年2月14日（水） 13時～14時
2. 研修場所 東京都 大田区産業プラザ PiO
東京都大田区南蒲田1-20-20
3. 講 師 学校法人軽井沢風越学園 理事長 本城慎之介氏
4. 講演内容 「あそびにほしい異・違・移」
5. 参加者 草津市議会会派 草津維新の会 田中詩織
6. 参加費 3,300円

II 講演の内容

講師は軽井沢風越学園の理事長で、学校の様子や実際の子どもたちの変化を動画などで紹介しながらの講演。2020年4月に開校した幼少中12年間の混在校であり、【じっくり ゆったり たっぴり まぎって遊ぶ 学ぶ「 」になる】をテーマとして、軽井沢風越公園近くにある2.2万坪の緑豊かな場所で、3歳から15歳の子どもたちが、主体性をもち、安全、安心、ルールをも子供達がつくり学んでいる。あそび、大人の役割、作り手を育むことについてなどのあそびを主体とした内容の講演。

III 受講して

「あそびでこえる。自分をこえる。」といったワードがでてきたが、あそびからは、可能性が広がる、意欲が高まる、つながりがうまれるといった、生きていく上で大切なことを得ることができるかと再確認できた。あそびの中で思い通りにならないことを体験したり、うまくいかないことも体験したり、コミュニケーションを学んだり、このことが自分を超越することになり、豊かな未来をつくることに繋がる。自分を超越するきっかけは、あそびのどんな場面で生まれるのか？といったことを考えた時に、あそびの環境が超越することを制限していることが多々あるように感じる。例えば、危険、面倒、子どもには無理、非効率、管理しにくいなど。これを大人が止めない、誘う、楽しむといったことをすることにより取り払えるのではないかと。移→移動、異→異なる、異質、異文化、異年齢、異なる道具、異分野、違→違うルール、違った体験、ということで講演をされたが、大人が勝手に思っている認識を変えていく必要があるということだと捉えた。制限せず自由に遊ぶことができる環境が大切であり、自治体の役割は大きいと考える。

IV 研修の資料等 別添のとおり

セミナー参加報告書

草津市議会議長
西村 隆行 様

令和7年2月19日
草津市議会 草津維新の会
報告者：田中 詩織

I 講演会の概要

1. 日 時 令和7年2月14日（水） 15時～16時
2. 研修場所 東京都 大田区産業プラザ PiO 東京都大田区南蒲田1-20-20
3. 講 師 福井県立大学地域経済研究所准教授 ウェルビーイング学会理事 高野翔氏
4. 講演内容 ウェルビーイングを目指したまちづくり ～まちに居場所と舞台を～
5. 参加者 草津市議会会派 草津維新の会 田中詩織
6. 参加費 3,300円

II 講演の内容

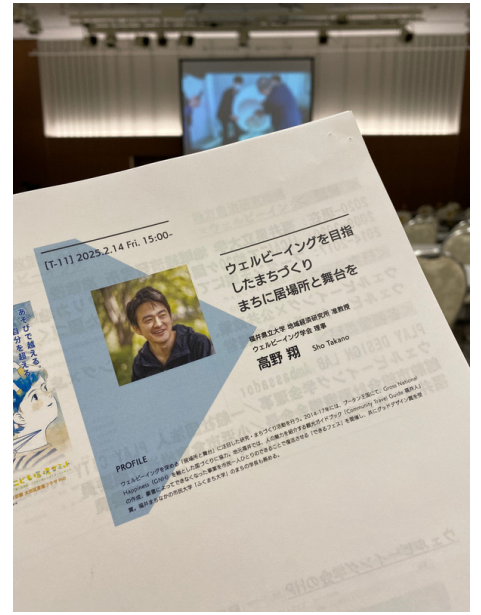
講師はウェルビーイングの研究を進めるとともに、福井県越前市のまちづくりに参画されており、越前市の総合計画にはウェルビーイングの越前市と掲げられている。ご自身の経験や研究内容に基づくウェルビーイングについて、まちづくり事例、あそびとウェルビーイングについての講演。

III 受講して

日本の子どもたちの孤独感が他国と比べて極めて高いことや、家族以外の人とのつながりがOECD20カ国の中で最も乏しい国であることなど、課題があることがはっきりとしているなかで、人とのつながりの大切さ、そして、それがウェルビーイングの源であるという考え方は大切であり同感である。GDP：量的拡大→SDGs：持続可能性、質的向上→SWGs：Well-being よい状態・尊厳といった考え方に時代と共にシフトしており、これから大切にしていけるべきは、幸福度といったところになっていくなかで、どうやって幸福度をあげる政策をうち実感できる社会にしていくのか。あそびがその中で重要な役割をもつのではないか。あそびの中には「手を差し伸べる」「目を合わす」「一緒に動く」「支える」「声をかけあう」そして、それをともだち、年下、世代を超えて、親同士が、地域コミュニティとともに体験する。あそびは社会的動物である人間にとって心身の健康とともに、社会の健康をつくるウェルビーイングの本質的行為であり、人々が孤独や孤立になることを防ぎ、多様な人々との大事なつながりを持って生きられることが重要であるとのことで、それに対して、自治体が何ができるのかが問われていると感じた。そして、みんなが遊べる遊び場（インクルーシブ公園等）は、そういった場に十分になり得ると改めて強く感じた。

IV 研修の資料等 別添のとおり

【こども環境サミット2月12日、2月14日】



TALK SHOW TIME SCHEDULE			
	2月12日(水)	2月13日(木)	2月14日(金)
11:00	T-1 ついあそんじゃうデザイン SHOBUKI, 丸山和史, 丸山和史, 丸山和史 まるごとあそびの楽しさをデザイン デザイナー 丸山和史氏 深澤直人氏	T-5 願いは、病院を超えて。一風と虹の架けに込めた願い〜 病院をこえて、みんなの願いを叶える 建築家 丸山和史氏 堀川直希氏	T-9 子育てとまち育て〜松崎夫妻の石見郡山での取り組み〜 子育てとまち育ての両立 松崎大吉氏 松崎登美氏
13:00	T-2 言葉は語る Presence more than words 言葉は語る Presence more than words 1. 言葉は語る Presence more than words 2. 言葉は語る Presence more than words 小堀哲夫氏	T-6 世界水準のオールシーズンマウンテンリゾートを目前して 世界水準のオールシーズンマウンテンリゾートを目前して 建築家 丸山和史氏 和田寛氏	T-10 あそびのなかの異・違・移 あそびのなかの異・違・移 建築家 丸山和史氏 本城慎之介氏
15:00	T-3 あそびを通じて豊かな社会をつくる あそびを通じて豊かな社会をつくる 建築家 丸山和史氏 広瀬統一氏	T-7 地域を離す 酒蔵の取り組み 地域を離す 酒蔵の取り組み 建築家 丸山和史氏 水野直人氏	T-11 ウェルビーイングを目指すまちづくり まちに居場所と舞台を ウェルビーイングを目指すまちづくり まちに居場所と舞台を 建築家 丸山和史氏 高野翔氏
17:00	T-4 アートで書く歴史 アートで書く歴史 建築家 丸山和史氏 西高辻信宏氏	T-8 AIに負けない力 AIに負けない力 建築家 丸山和史氏 内田伸子氏	T-12 「ふつう」ってなんだろ？ 「ふつう」ってなんだろ？ 建築家 丸山和史氏 小島慶子氏

